Kita-re
北近畿地域連携センター

平成30(2018)年度福知山公立大学

北近畿地域連携センター

年次報告書

センター長あいさつ

北近畿地域連携センター長　杉岡 秀紀

今年度は、年度当初に富野暉一郎前センター長からバトンを引き継ぎ、センターを構成する委員も若干の変更がありました。その意味で、センター発足からの２年間で培われた土台をさらに基礎固めしつつ、次のアクションのための「発展的継承」の１年になったと思います。

とりわけ、今年度は以下の基本方針を掲げ、活動を展開して参りました。

（１）大学における地域からの窓口としての機能を引き続き果たしつつ、Kita-re スペースのさらなる活用を促進する。

（２）北近畿地域連携会議の発信、事務局機能の向上を図りつつ、会議メンバー間の交流、新たな研究メンバーの参加も検討するなど研究による地域貢献を進めるとともに、今後のビジョンの検討を行う。

（３）これまで培った北近畿管内の10 市４町、及び府県との連携を深める。また、訴求力ある講師を北近畿に招聘するシンポジウムの開催などを通じ、広く地域社会に大学のもつ知の資源を還元する。

（４）包括協定締結団体との連携をより一層進め、新たな協定（京都府・京都府北部市町、兵庫県北部市町）を締結し、高校との連携も進める（高大連携研究会など）。

（５）ニュースレターを発行するほか、HP や SNS の更新に力を入れ、広報力を強化する。

（６）市民学習・キャリア支援センター（まちかどキャンパス含む）、メディアセンター、国際交流センター、実践教育専門委員会など地域に関わる学内の関連委員会・センターとの情報共有に努め、学内における連携・協働を進める。

（７）事務力の強化を図るとともに、学生による地域連携も進める（宮津わかもの会議など）。また、「チーム Kita-re」づくりのために、スタッフ間の交流の機会も大切にする。

この１年間を振り返りますと、お陰様でこれら方針は概ね達成できたと思います。ただし、2020 年度からの新学部設置なども踏まえ、さらなる文理の枠を超えた連携推進のためには今後いっそうの努力が必要と実感しています。地域の皆さまには引き続きご助言、ご指導、何より積極的なご協力、ご参加を賜りたく、切にお願い申し上げます。

Kita-re

目次

北近畿地域連携センターの概要 …… 1

北近畿地域連携会議 …… 3

北近畿地域連携シンポジウム …… 5

第１回　北近畿地域における公共交通と高齢ドライバー

第２回　地域コミュニティと自治体のよりよい「つながりかた」を考える

第３回　日本海新時代とグローカリズム
～北東アジアにおける冷戦の終焉と新たな経済圏形成の可能性～

第４回　農福連携を通じた障がい者の社会参加
～農業と福祉の新しい連携のかたち～

第５回　地域と AI について考える

第６回　明智光秀の生涯と丹波福知山

北近畿地域連携センター研究助成（地域研究プロジェクト） …… 17

包括協定の締結状況について …… 19

まちかどキャンパス事業（福知山市・朝来市・丹波市連携事業）…… 21
高大連携研究会

まちかどキャンパス事業（丹波市・朝来市連携事業）…… 24

まちかどキャンパス事業（宮津市連携事業） …… 25

北近畿地域連携センター事業アンケート集計結果 …… 27

北近畿地域連携センターの概要

●北近畿地域連携センターの概要

北近畿地域連携センターは、教育研究の成果を積極的に社会へ発信する機能を充実させることに加え、地域からの相談窓口としての機能を担い、地域と大学とが連携・協働して地域課題に取り組む体制を構築することを目的に設置されました。

また、2017 年度からは地域住民と本学の教職員、学生が交流できる拠点を「Kita-re」（読み方：きたーれ）を開設しています。「Kita-re」には、北近畿地域連携センターの略称として「北近畿」の「きた」と「連携」の「れ」をつなげると共に、本センターに地域住民の方々が広く来てほしいという「来たーれ」という意味が込められてます。また、アルファベットで「Kita」の後に「re」をハイフンでつなげた部分には、「何度でも来てほしい」という思いも込めています。

●北近畿地域連携センターの主な４つの事業

①地域連携に関する相談窓口・教員紹介・組織連携

○相談窓口
○教員紹介・事業マッチング
○協定締結等の調整・情報交換　など

②Kita-re の運営

○コワーキングスペースの利用窓口
○Co-Lab. スペースの利用窓口
○カフェスペースの運営　など

③地域連携事業の企画・情報受発信

○講演会、シンポジウム等の企画・運営
○高大連携事業の企画・実施
○北近畿地域に関する情報の受発信　など

④北近畿地域に関するシンクタンク（調査・研究・提言）

○北近畿地域連携会議の事務局
○地域研究プロジェクト
○共同研究の企画・実施
○受託研究の窓口　など

●北近畿地域連携センター (委員会) の運営体制について

・委　員：杉岡秀紀（准教授）※委員長／センター長
　　岡本悦司（教授）、神谷達夫（教授）、江上直樹（助教）
・事務局：竹友良成、賀田秀樹
・北近畿地域連携会議：富野暉一郎（事務局長／福知山公立大学副学長）
・コーディネーター

◆アクセス、問い合わせ先
福知山公立大学「Kita-re」
京都府福知山市字堀 3370　福知山公立大学２号館１階
TEL:0773-24-7151 FAX:0773-24-7152
E-mail:kita-re@fukuchiyama.ac.jp

北近畿地域連携会議

〔概要・趣旨〕

北近畿地域連携会議は、北近畿地域に深く関わる３大学（福知山公立大学･京都工芸繊維大学・兵庫県立大学）と民間の各機関・団体が連携・協力し、北近畿地域の課題に対する具体的な提言や提案を行うシンクタンクとしての機能と、課題解決に向けた地域研究プロジェクトを実施するためのプラットフォーム機能を果たすことを目的に設立されました。

2018 年度は、2017 年度に引き続き、継続研究の①「高齢者の運転免許返納による社会的影響を改善するための、地域社会の新たなシステム構築と、その持続可能性にかかる社会経済モデル」研究会と②「住みたいまち、行きたいまち、働きたいまちの創生に向けた新たな挑戦」（第１分科会「若者の北近畿地域への定着に向けた新たなアプローチ」、第２分科会「北近畿地域を面的に周遊する観光への挑戦」）研究会に取り組みました。

ここで得られた研究成果を報告書や提言書として発表することはもとより、収集したデータに基づき、次なるアクションに繋げていきます。

北近畿地域連携会議では、こうした活動を通して、従来、縦割で分断されてきた民間の知恵や経験、蓄積を組織化する動きをいっそう強めて参ります。

なお、発足から約２年が経過し、現在は、53 の団体会員により構成されています。

〔詳細・内容〕

北近畿地域連携会議　研究会

研究会	研 究 会 テ ー マ
①	高齢者の運転免許返納による社会的影響を改善するための、地域社会の新たなシステム構築と、その持続可能性にかかる社会経済モデル
②	住みたいまち、行きたいまち、働きたいまちの創生に向けた新たな挑戦
②-1	若者の北近畿地域への定着に向けた新たなアプローチ
②-2	北近畿を面的に周遊する観光への挑戦

【総会】

2018 年５月 18 日に総会を実施しました。

【幹事会】

2018 年５月 18 日、６月 19 日、12 月７日に幹事会を実施しました。

【研究会①高齢者の運転免許返納による社会的影響を改善するための、地域社会の新たなシステム構築と、その持続可能性にかかる社会経済モデル】

2018 年４月 17 日、８月 12 日、11 月２日、2019 年２月６日に研究会を実施しました。また、９月 27 日（木）、ウーバー、カーシェアリング等を含む新たな地域交通システム構築に関する調査のため淡路島を訪問しました。さらに、７月 21 日には、この研究会との関連で、北近畿地域連携センター主催の第一回北近畿地域連携シンポジウム「北近畿地域における公共交通と高齢ドライバー」を共催しました。年度後半は、昨年度の研究により明らかとなった課題の解決に向け、「非大都市圏高齢社会における公共私地域交通のシステムのベストミックスについて」の可能性を探るべく、福知山市における公共交通に関する財政支出についての研究を中心に行いました。

【研究会②—１若者の北近畿地域への定着に向けた新たなアプローチ】

2018 年５月８日、７月 31 日、11 月５日、2019 年２月６日に研究会を実施しました。また、昨年度、北近畿管内の京都府・兵庫県６校にご協力いただいた「北近畿における高校生の郷土意識に関するアンケート調査」の分析に引き続き取り組みました。年度後半は集計方法を変更し、北近畿における高校生の郷土に対する若者が住み、働きたいまちをつくるために必要な要素や意識に関する傾向について整理しました。

【研究会②–２北近畿を面的に周遊する観光への挑戦】

2018 年７月 26 日、11 月 28 日、２月 13 日に研究会を実施しました。また、昨年度に引き続き、京都府北部地域連携都市圏振興社（海の京都 DMO）から提供いただいたパケットセンサーのビッグデータを活用し分析を行いました。北近畿地域連携センターの地域研究プロジェクトと密接に連携させ、新たに開発されたデータ解析の手法を活用することで、単に観光客の動向を可視化するだけに留まらず、数値情報として客観性に基づいた政策提言を行いました。

第 1 回　北近畿地域連携シンポジウム

北近畿地域における公共交通と高齢ドライバー

■7 月 21 日（土）18：00 ～ 20：30　■アグリセンター大宮　■参加者　42 人
■講演者　蓮花　一己氏（帝塚山大学　学長）
■パネラー　三崎　政直氏（京丹後市長）　藤原　哲也氏（㈱和田山自動車教習所　代表取締役）
■コーディネーター　富野　暉一郎（本学　副学長）
■共催：北近畿地域連携会議　■後援：京丹後市

〔概要〕

北近畿地域連携センターが事務局を担う北近畿地域連携会議は、一年目の研究成果を提言「高齢ドライバーに運転免許証継続支援を～運転免許証自主返納政策を超えて～」として発表し、大きな反響を呼びました。

第１回北近畿地域連携シンポジウムは、その成果を受け、高齢者の免許返納を難しくしている地域の公共交通事情の改善に向けた取り組みを考えようとするシンポジウムを企画しました。具体的には、ウーバーのシステムを先進的に導入する京丹後市の三崎政直市長、交通心理学の立場から公共交通システムの専門家である帝塚山大学学長の蓮花一己教授、和田山自動車教習所代表取締役の藤原哲也氏、そして本学の富野暉一郎副学長の４者により、多様な視点と新たな発想が行きかう密度の高い議論が展開されました。特に地域公共交通システムの新たな概念として“公・共・私型公共交通システム”が提唱されたことは、今後の地方における公共交通システムのあり方に一石を投じることとなりそうです。

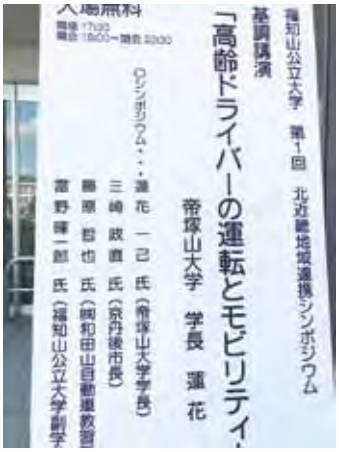
（詳細・内容）

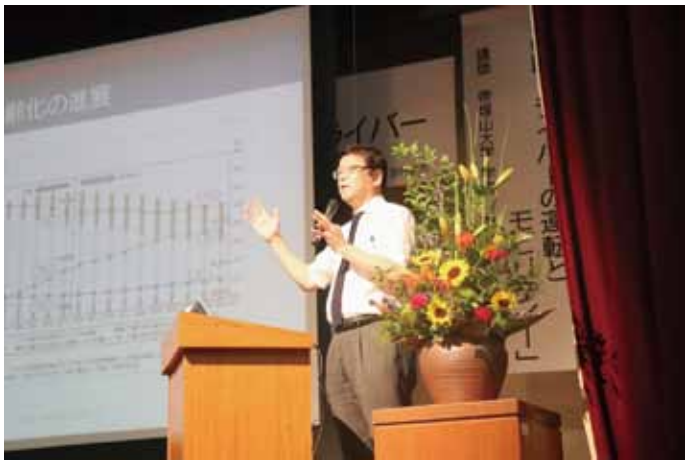
2018 年 7 月 21 日 (土)、第１回は北近畿地域連携シンポジウムを京丹後市アグリセンター大宮で開催しました。

第 1 部は「北近畿における公共交通と高齢ドライバー」を演題に、帝塚山大学学長の蓮花一己氏（交通心理学）を招請し、高齢者の運転特性について動画なども交えた、話題提供いただきました。

第２部のパネルディスカッションでは、登壇者に京丹後市長の三崎政直氏と和田山自動車教習所代表取締役の藤原哲也氏に加わっていただき、本学副学長の富野暉一郎によるコーディネートのもと、①高齢者特性による事故を防止するための教習や学び直しのあり方、②免許返納後も安心して生活するための地域公共交通システムのあり方について議論が展開され、「自助・共助・公助」のあり方を今一度見つめ直す時期にきていることを確認する場となりました。

〈文責　富野〉





北近畿地域における公共交通と高齢ドライバー

第２回　北近畿地域連携シンポジウム

地域コミュニティと自治体のよりよい「つながりかた」を考える

■2018年10月13日（土）10：00〜12：30　■市民交流プラザふくちやま 市民交流スペース　■参加者 73人
■講演者　役重　眞喜子氏（花巻市コミュニティアドバイザー＆コメンテーター）
■パネラー　岡部　成幸氏（三和地域協議会事務局長）、馬袋　真紀氏（朝来市市長公室総合政策課創生企画係長）、渡邉　和重氏（水源の里古屋代表・古屋自治会長）
■コーディネーター　杉岡　秀紀（北近畿地域連携センター長／地域経営学部　准教授）　■共催：福知山市

〔概要〕

平成の大合併以降、約3,300あった自治体が約1,700と半減し、地域が広域化した結果、地域（コミュニティ）と行政（ガバメント）との距離が遠くなったという声をよく聞きます。

他方で、政府の「地方創生」の大号令のもと、小規模多機能自治や小さな拠点づくりの必要性が叫ばれ、小学校区単位や中学校区単位での地域コミュニティづくりが推奨されています。

そこで、第２回では、合併問題の専門家で、自らの地域でも地域（コミュニティ）と行政（ガバメント）との距離を縮める活動を展開ている花巻市コミュニティアドバイザーの役重眞喜子氏を招請し、現在の地方自治、地域づくりをめぐって何が一番議論すべきポイントなのか、何が本質の問題なのか、最新の研究動向も踏まえ基調講演をいただきました。

その後、福知山市で公共交通空白地帯有償輸送をはじめ小さな拠点づくりに取り組む三和地域協議会の岡部成幸氏、朝来市の与布土地域はじめ市全体の地域自治協議会に伴走されている朝来市の馬袋真紀氏、人口４人の綾部市の小さな集落で水源の里作りに取り組む古屋自治会の渡邉和重氏に登壇いただき、現場の視点から「地域コミュニティと自治体のよりよい『つながりかた』を考える」をテーマに、パネルディスカッションを行いました。

〔詳細・内容〕

前半の役重眞喜子氏（花巻市コミュニティアドバイザー）の基調講演では、花巻市の概要紹介、花巻市になる前の旧東和町との出会い、東和町職員と地域の関わり方、東日本大震災で感じた合併自治体と地域との距離感、コミュニティにおける融合型と統治型の関係性、総意・創意の２つのソウイなどについて話題提供頂きました。とりわけ「職員である以前に住民であるべき」「合併で行政と地域の関係は遠のいた」「地域自治は総意、地域づくりは創意が大事」との問題提起は、花巻市のみならず、北近畿含め全国の地域に共通することと思われます。

後半のパネルディスカッションでは、３人のパネラーにそれぞれの地域コミュニティづくりの事例紹介を頂きました。具体的には、三和地域協議会事務局長の岡部成幸氏からは「基礎的生活圏を守る」という活動理念のもと、地域協議会が生まれたプロセスや部会の活動内容、特に公共交通空白地帯における有償運送サービスの概要などについて紹介頂きました。次に朝来市市長公室総合政策課創生企画係長の馬袋真紀氏からは、合併を機に創設された地域自治協議会への参加事例を通して、「自分ごとで考える職員」が増え、その活動を通して行政と地域との間の信頼関係や仲間意識が醸成されたエピソードが紹介されました。最後に渡邉和重氏（水源の里古屋代表・古屋自治会長）からは、「自分の代では終わらせたくない」との問題意識のもと、水源の里・古屋において３世帯４人で取り組む栃の実を活用した商品開発を通して、年間 700 人を超える地域外からのボランティアの共感を得られている事例を紹介頂きました。

以上３名の事例紹介を受け、パネルディスカッションの後段では基調講演を頂いた役重眞喜子氏にも議論に加わって頂き、「地域コミュニティにおける総意と創意のバランス」「地域コミュニティと行政との理想的な関係性について」などついて活発な意見交換を行いました。

パネルディスカッション終了後は会場で名刺交換会を開催。参加者のみなさんと登壇者との交流の機会も生まれました。

〈文責　杉岡〉

第３回　北近畿地域連携シンポジウム

日本海新時代とグローカリズム

～北東アジアにおける冷戦の終焉と新たな経済圏形成の可能性～

■2018 年 11 月 3 日（土）14：00 ～ 16：30　■舞鶴市西地区多機能施設多目的ホール　■参加者　43 人
■講演者　李　相哲氏（龍谷大学社会学部教授）
■パネラー　松野　周治氏（立命館大学名誉教授）
■コーディネーター　篠原　正人（本学　地域経営学部教授）

〔概要〕

極度の緊張状態にあった米朝両国は、2018 年６月に両首脳による会談の開催をきっかけにして、大筋では軍事的な緊張の緩和と第二次世界大戦後最後に残った冷戦の終焉に向けて具体的な道筋を模索する段階に入りました。現段階ではまだその着地点は不確かで楽観は許されません。

しかし、北近畿地方は朝鮮半島に地理的に近い位置にあり、また歴史的に見ても朝鮮半島情勢の影響を強く受けてきました。したがって、現下の東アジア情勢を把握し、今後想定される事態に対して地域として的確に対応をする必要があります。それには幅広い見地から判断することが求められます。

そこで、今回のシンポジウムでは、この分野に明るい李相哲先生に朝鮮半島情勢および新たな日本海経済圏に関する講演を頂き、その後３名の有識者による鼎談を行いました。このシンポジウムを通じて、朝鮮半島を巡る情報の把握と分析を共有し、さらに近い将来の朝鮮半島の交流自由化に伴って形成される新たな北東アジア経済圏について、我々が多角的に検討する材料を提供できたと思います。

〔詳細・内容〕

講演①

「米朝首脳会談後の朝鮮半島の行方」

李　相哲氏（龍谷大学社会学部教授）

講演②

「『東北アジア新経済圏』形成の可能性と意義について」

松野周治氏（立命館大学名誉教授・北東アジア学会会長）

【パネルディスカッション】

１．**趣旨説明**

コーディネーター：篠原正人（本学特任教授）

２．**「北東アジアの新たな経済圏の可能性」**

松野教授から「北東アジア経済圏構想と日本」について話題提供がありました。

李教授からは「大陸側から見た日本」について話題提供がありました。

３．**「北東アジア新経済圏が北近畿にもたらす可能性」**

貿易、国際分業、直接投資、国際物流、一帯一路、文化交流、観光など、各自の専門に応じて順次発言がありました。

2018 年 4 月 27 日に初めて実現した南北朝鮮首脳会談、それに続き同 6 月 12 日に実現した米朝首脳会談の結果を受けて、朝鮮半島の経済交流自由化への期待がにわかに高まりました。日本海に面する北近畿の経済にとっては、朝鮮半島の平和が実現したら大きな商機になることが期待されています。

李教授は、北朝鮮の金正恩委員長は韓国と米国を上手く誘導して、話し合いにこぎつけたと分析します。ただし、米韓にとって北の核の脅威を取り除くことが大きな前提条件となっていますが、金委

員長の巧みな交渉術によって、核廃棄の実行は一筋縄では行かないと見ます。それは、金委員長が軍事力によってしか政権を維持できないと信じているからです。そのため、現在、経済の再建は二の次になっています。北朝鮮にとっては経済制裁を解除させることが最も重要な条件ですので、両者の交渉は容易には決着しません。従って、今後われわれにできることは経済制裁を続けていくことであり、その漏れをふさぐ努力をすることであると強調しました。

このように対北朝鮮関係の雪解けにはまだ紆余曲折があるとの見方からすると、日本海新時代の到来はまだ先のことと考えざるをえないことになりますが、長年「東北アジア新経済圏」を唱えてきた松野教授は次のように分析します。

世界の経済成長に占める北東アジアのシェアは非常に大きく、その中の日本は、成長率は低下したものの国民の生活は安定し、企業は海外進出によってアジアを中心とした新たな生産ネットワークを築いています。中国は「一帯一路」政策の推進によって、アジア全体の成長のイニシアティブを取ろうとしており、ロシアはシベリア・極東の振興を国家最優先課題と設定しています。そして韓国は、環黄海圏と環東海（日本海）圏を両輪とする「朝鮮半島新経済地図」構想や「新経済政策」の中に、北朝鮮を組み入れようと企図しています。そのような北東アジアの動きの中で、地域協力の強化による地域経済圏の形成が重要になってきます。日本に期待される役割は、経済面だけでなく、人的交流の拡大によって経済連携を支えていくことであると松野教授は締めくくりました。

北近畿地方は舞鶴港を結節点として環日本海各地に大きく門戸を開いています。これまで太平洋岸に偏重していた日本の経済地図は、北朝鮮という不安定要素を今後も抱えながらも、着実に日本海側の役割を増す方向に進んでいると思われます。

今後のサプライチェーン展開の選択肢として、これを念頭に経営戦略を練っていく必要があるように思います。

〈文責　篠原〉

第４回　北近畿地域連携シンポジウム

農福連携を通じた障がい者の社会参加～農業と福祉の新しい連携のかたち～

■2018 年 11 月 27 日 (火) 18：00 ～ 20：30　■養父市立八鹿公民館　■参加者　50 人
■講演者　濱田　健司氏（JA 共済総合研究所　主任研究員）
■パネラー　広瀬 栄氏（養父市長）、藤原さゆり氏（社会福祉法人よさのうみ福祉会　リフレかやの里管理者）
■コーディネーター　岡本　悦司　（本学　地域経営学部　教授）
■共催：養父市

〔概要〕

「障がい者の自立と社会参加」というスローガンを掲げることは容易ですが、では、障がい者はどのように社会に参加し貢献できるか？自立するには就労し賃金を得ることが必要ですが、どのような就労機会があるか？このような問いに対して、観念論、感情論に流されることなく、文字通り「地に足のついた」議論を展開することを目標として本シンポジウムは企画されました。

障がいの種類も多様であり、知的障害、精神障害、そして視覚障害とでは、可能な就労にも自ずと違いがでてきます。知的障害や発達障害を有する人は、客商売は苦手かもしれませんが、人ではなく自然を相手にする農業に適した人もいるでしょう。障害の程度と態様に合った就労形態を提供すれば、障がい者も社会に十分に貢献できるでしょう。

こうした問題意識から、基調講演は農福連携の全国展開にむけた活動をしている JA 共済総研の濱田健司氏に、そしてパネラーには農業の国家戦略特区として全国に知られる養父市における農福連携の取り組みとその成果を広瀬栄市長と、実際に障がい者の就労事業所の管理としての経験と実績を「リフレかやの里」管理者の藤原さゆり氏にそれぞれ依頼しました。

本シンポジウムの趣旨は濱田氏の次の主張に要約されます。「私は障がい者と農業がむすびつくことで相互にメリットがあると考えている。農業で働く人々が減るなかで、障がい者の新たな雇用機会がうまれてくるのではないか。農業は障がい者にとって、実は普通の職場より働きやすい環境といえる。障がい者の好みにもよるが、密室のなかでノルマを課せられる職場よりも自然と向き合う農業は働きやすい傾向にある。農には障がいを持つ人々を受けいれる力がありそれが『農の福祉力』である」(濱田健司「農福連携と『里マチ』づくり」63 頁)

〔詳細・内容〕

基調講演ではまず濱田氏が、10 年以上前に農福連携に取り組みだした頃の体験からスタートしました。障がい者が就労を通じて生産に貢献できる可能性について、当初は研究者の間からも疑問視する見方がなくはなかったといいます。氏は、各地の福祉事業所や農業経営者、そして厚生労働省や農水省とのひろいパイプを通じて農福連携を推進してきた経験を語られました。農業はどこも後継者難と人手不足に悩んでおり、従事者の高齢化も深刻になっています。2006 年に障害者自立支援法（現障害者総合支援法）が、障がい者がサービスや事業所を自由に選択できるようにするとともに、工賃の一層向上を目指すことが求められるようになったことも追い風となりました。氏が関わった、求人と求職者を適切に結びつけることで、農業ひいては地域の再生につながるという実例が多数紹介されました。

続いて、広瀬栄養父市長より、養父市内での取り組み事例が報告されました。かるべの郷ドリームワークス（就労継続支援Ｂ型）は一般就労の難しい

障がい者に、農作業などを提供しながら就労の準備をしています（登録者 68 人）。レタスの水耕栽培の作業補助等、短期間、短時間の就労を必要とする業務は一般雇用で対応することが困難であり、農福連携が機能しています。また農場物語という就労継続支援 A 型事業所は、障がい者を雇用契約に基づいて農作業補助（米・野菜作り）、清掃作業、門松・松竹梅製作販売、ポスティングに従事させ就労機会を提供しています。また市独自の取り組みとして、福祉無料職業紹介所（通称、アグウェルやぶ）が紹介されました。養父市は農業分野の国家戦略特区に指定されており、事業者の人材需要は高いが市が直接職業安定事業を行えないため「無料職業紹介事業（職業安定法第 29 条に基づく）」として実施されています。

最後に、与謝野町で就労継続支援事業 A 型、B 型リフレかやの里（与謝野町の指定管理）の管理者を務める藤原さゆり氏より報告がありました。障害のある人に「誇りある仕事と当たり前の給料を保障する」「経済的に自立できる」を目標に一貫して取り組んできました。まちおこしのため 9 億円を投じて建設された施設が倒産したため、後継の管理者に応募しました。現在の事業はＡ型事業所として宿泊施設のレストラン厨房、ホール、フロント業務 , 清掃等の業務に 11 名（精神 5、知的 2、身体 3、発達障害 1 名）、B 型事業所として農業及び農産加工（ジュース、ジャム、ドレッシング等、パン・菓子製造）業務に 16 名（全員知的障害）就労しています。A 型は最低賃金（882 円）×5 時間で月約 10 万円、B 型は 1 時間 300 ～ 500 円で月約 2.5 ～ 5.5 万円。野菜・果実には規格外がどうしてもでるのでそれを使った農産加工事業を 2007 年に立ち上げ、2010 年には丹後産 100%ジュースで厚生労働大臣優秀賞を受賞しました。

会場となった養父市公民館は満員に近い盛況であり、参加した市ならびに周辺地域の農業や福祉関係者にも農福連携の可能性が周知されるいい機会となりました。これを契機に養父市の農福連携が一層の発展することを期待しています。

〈文責　岡本〉

第５回　北近畿地域連携シンポジウム

地域と AI について考える

■2018 年 12 月 20 日（火）18：30〜21：00　■豊岡市役所大会議室（2 階）　■参加者　152 人
■講演者　西田　豊明氏（京都大学大学院　情報学研究科教授）
■パネラー　中貝　宗治氏（豊岡市長）、山田　篤　（本学　地域経営学部　教授）
■コーディネーター　神谷　達夫（本学　地域経営学部　教授）　■共催：豊岡市

〔概要〕

近年、AI ブームと言われるように、報道等でも毎日のように AI が取り上げられています。以前にも AI ブームがありましたが、今回の AI ブームは、これまでのブームと異なり、技術の普及が急速に進んでいます。特に、今回の AI ブームは、開発者がその開発成果（ソースコード含む）を積極的に公開したため、技術の普及が促進されています。また、今回の AI ブームの根幹となっている「機械学習」は、プログラミングによって問題解決するのではなく、データを与えると問題解決の手段が得られるため、データさえあれば実現が容易です。データさえあれば AI の実現が容易であるということは、低コストで導入できる可能性が高く、これまで AI のみならず情報技術の導入ができていなかった用途にも技術を導入することができます。したがって、地域の活性化や地域の産業に AI を用いた情報技術の成果が導入できる可能性が高いと考えられ、「地域活性化」や「地域産業の振興」のために地域への AI 導入を促進すべきです。

そのような問題意識から第 6 回には「地域と AI について考える」をテーマにシンポジウムが企画されました。

〔詳細・内容〕

シンポジウムは、２部構成になっており、第１部は西田先生の基調講演でした。休憩をはさみ、第２部は、「地域と AI について考える」とうテーマでのパネルディスカッションで行いました。

第１部 基調講演：西田豊明氏

第２部 パネルディスカッション　「地域と AI について考える」
◯ パネラー：中貝　宗治氏　（豊岡市長）
　　山田　篤　（福知山公立大学地域経営学部教授）
　　西田　豊明氏　（京都大学大学院教授）
（コーディネーター）神谷　達夫（福知山公立大学地域経営学部教授）

[基調講演]

基調講演では、西田氏より「AI が変える未来」と題して、AI 研究の歴史や近年の AI に関する研究・開発の事例をご紹介いただきました。

まずはじめに、AI 研究の歴史についての説明後、Google 翻訳や Skype Translator、Mathpix、Microsoft Hololens、Google Home、「スマート養豚プロジェクト」などの近年の AI 応用事例の紹介がありました。その後、AI 研究の現状と AI の仕組みの説明がありました。AI の仕組みの説明では、ニューラルネット法、深層強化学習、

系列変換モデルの GAN（敵対的生成ネットワーク）が取り上げられ、AI の適用例の紹介がありました。次に、AI の研究の現状と AI への懸念項目、近未来の AI について解説されました。現在の AI は、「知覚を備えた知的なマキナ」から、「自律的に模倣するマキナ」「心を持つマキナ」への過渡期であり、真似は上手だが人間と同様の理解能力は欠いているとのことでした。そして、AI 社会までのシナリオが提示され、「ツールとしての AI」、「メディアとしての AI」、「パートナーとしての AI」と順に広がって行くとのことでした。最後に、キッズベンチャーの取り組みの紹介があり、その中で発案された「トモロボ社」のデモンストレーション映像が公開されました。

[パネルディスカッション]

パネルディスカッションは、「地域に AI の成果を取り入れるには？」、「AI の課題とその対応」についてのパネルディスカッションと、会場からの質疑応答に答えるという形式で進行しました。

はじめに、「地域に AI の成果を取り入れるには？」のパネルディスカッションでは、中貝豊岡市長から豊岡市の取り組みについての説明がありました。例として視覚障害者を支援する「オトングラス」の提供とタブレット端末による医療機関への通訳支援が挙げられました。公共交通機関への AI 応用では、現在はオンデマンドで進め、自動運転に切り替えて行く計画が説明されました。また、人口問題については、女性が戻ってこないことの解消にジェンダーギャップの解消に AI が使えるのではないかと考えているとのことでした。また、新しいテクノロジーが入ってきて楽になったかというとこれまでもそうでない事例があったので、そうならないようなことが必要であると述べられました。

次に、現在の AI の課題について、パネラーの山田教授から説明がありました。現在の AI 技術は、深層学習が中心で、例えば音声認識では数 10 万人のデータがあれば結構な認識率が達成できるが、それを集めるのは難しい。また、データの権利の問題があり、データがあっても使えない場合がある。例えば、行政のデータは蓄積されているが、個人情報等は使えない場合が多い。また、現状の AI は、なぜそのような結果になったのかが説明しにくい点が課題であると述べられました。これらの解決策として強化学習についての説明がありました。

会場からの質疑では、豊岡市の政策に関する質問や未来の雇用に関する質問、AI 向けコンピュータに関する質問が多く寄せられました。

〈文責　神谷〉

第６回北近畿地域連携シンポジウム（福知山PR戦略総合推進事業）

明智光秀の生涯と丹波福知山

■2019 年 2 月 24 日（日）14：00 ～ 16：30　■サンプラザ万助　３階　ビアンコルーチェ
■参加者　310 人
■講演者　小和田　哲男氏（静岡大学　名誉教授）
■パネラー　谷口　研語氏（元法政大学　講師）、福島　克彦氏（大山崎町歴史資料館　館長）
■コーディネーター　井口　和起（本学　学長）
■共催：福知山市、福知山光秀プロジェクト推進協議会

〔概要〕

福知山ゆかりの戦国武将 明智光秀についての知識と理解を深めるとともに、2020 年 NHK 大河ドラマ「麒麟がくる」（明智光秀の生涯を描く）の放送開始をひかえ、市民の気運を盛り上げる機会を提供することを目的としました。

〔詳細・内容〕

「戦国武将 明智光秀」と題した小和田哲男氏の基調講演では、①明智光秀の前半生は生年・出生地・父の名などが、史料的根拠に基づいて確定できがたい「謎だらけ」であること、②織田信長の家臣となって以降は、文字どおり「家臣団中の出世頭」だったこと。有名な「金ヶ崎の退歩き口」でも秀吉だけでなく光秀も奮戦していたことや比叡山焼き討ちでも積極的に奮闘し軍功を立てていたこと等々、③彼の丹波「平定」と福知山における由良川の改修や民政のあり方などが、わかりやすく語られました。

パネルディスカッションでは、最初に谷口研吾氏が、資料として配布された『明智光秀の生涯と丹波 福知山』（2017 年、福知山市刊）の目次を紹介しつつ、分担執筆の過程で、各執筆者が特に光秀と福知山の関係を語ることに留意したことを話されました。光秀の生涯にとっての丹波「平定」の意味という視点と、福知山にとっての光秀の事績の持つ意味という二つの視点からこの本が制作されていることを語られました。谷口氏はこの本では光秀の生涯を執筆されています。

次いで、福島克彦氏は「丹波における明智光秀研究の諸問題―大河ドラマ化をめぐって」と題して報告されました。具体的には、①ドラマの「企画意図」は、光秀の「謀反人イメージ」を覆し、勇猛果敢かつ理知的な天才というイメージが重視されており、史料的に不明な光秀の青春時代から描かれるだろう。これは、近年の歴史研究の成果をふまえた、戦国時代像＝「混迷頽廃の時代」というイメージの転換にせまるものの一環である。②丹波との関係でも、単に外から光秀が「丹波平定」を行ったというのではなく、光秀に味方する武士たちもいたことから丹波地域の戦国期の歴史像の再検討が必要、③今回のドラマ化を契機に自治体の資料館・博物館の広域連携した共通テーマの展示の取り組みもあり、丹波の地域史の再構成に寄与するだろうとも指摘されました。

なお、いずれも谷口氏が紹介された『明智光秀の生涯と丹波 福知山』が参考になります。

【ディスカッションの中で】

参加者のみなさんから大変多くの質問が講演者やパネリストに寄せられたのですが、それらに一つ一つ答えていただく進行は時間の関係で出来なかったので、質問事項を念頭に置きながらもディスカッションはほぼ以下の４点について展開していただきました。

第一は、明智光秀の生涯と人物像を、彼が生きた時代の中で再構成する課題です。これはまず、「光秀＝謀反人」というイメージを払拭することです。それには「下剋上」が当然視されていた「戦国時代」の中で、光秀は、文化人的教養も含めて武将としても多様で優れた能力と繊細な感覚を備えた人物であり、それがどのように彼の行動や施策に表れていたかを実像として把握することでした。ここでは、だれもが持つ興味関心ですが、光秀が「本能寺の変」に踏み切ったのは何故か？に関連する質問が数

多く寄せられました。講演者や報告者の方々が、光秀の理知的な人柄と優れた能力を語られれば語られるほど、そんな彼が何故急に信長襲撃に踏み切ったのか、その戦略的準備や勝利後の構想はどんなものだったのか、いずれも史料がなく明らかにできないだけに、やはり「謎」はますます深まっていきました。

第二は福知山にとっての彼の事績の歴史的評価にかかわる課題です。ここでは特に丹波地域は旧荘園領主の力も比較的強く残っており、寺社や城郭を中心とした中世都市が未発達な地域だったことと関連して、光秀の亀山（現・亀岡）城や福知山城の設置が画期的であったこと、「地子銭免除」は新領主が新たな支配地ではしばしば行うもので、他でも見られることだが、由良川改修の治績は大きい。いま、「蛇ヶ端御藪」か「明智藪」かという呼ばれているが、この際、彼の行った治水工事を基礎に築かれたこの地域の堤全体を、「光秀堤」と呼ぶようにしてはどうかと、小和田氏からの提案がありました。参加者の方々からも賛同が得られそうでしたが、ではその範囲はどこからどこまでなのか？となると今後検討していかねばならないでしょう。

第三は、今回の大河ドラマ化を契機に、まだ地域に埋もれている資料の発掘と収集に地域全体で取り組み、それを共有する課題に精力的に取り組もうという呼びかけです。これは、この地域の戦国時代史やそれ以後の再検討と再構成の仕事につながり、新たな地域史研究にもつながるでしょう。

第四は、明智光秀の生涯の大河ドラマ化を契機に、福知山市民はもちろん関連する各地域の自治体や住民が新たな活力をもって、地域の活性化、とりわけ観光を中心として交流人口の拡大に取り組んでいこうという呼びかけでした。

福知山光秀プロジェクト推進協議会副会長の福島慶太氏の閉会の辞でもこのことが力強く訴えられました。

〈文責　井口〉

北近畿地域連携センター研究助成（地域研究プロジェクト）

〔概要・趣旨〕

地域連携型の教育研究活動による地域貢献を促進するため、地域が抱える課題に対して本学が有する「知」を活用する機会を創出することを目的に地域研究プロジェクトを実施しています。具体的には「自由テーマ」と北近畿地域連携会議の研究会と連携して行う「指定テーマ」で公募・審査を行い、採択が決まった研究に助成を行っています。本年度は５月 25 日に募集を開始し、７月 13 日に４件のプロジェクトが採択され、９月 12 日に追加の３件含む計７件のプロジェクトが採択されました。

〔詳細・内容〕

【採択結果一覧】

教員名	共同研究者	テーマ	研究題名	申請額（千円）
岡本　悦司	南　商尭	自由テーマ	ビッグデータを用いた高齢者入院医療の日韓比較研究	450
平野　真	①中尾　誠二 ②張　明軍 ③劉　鳳 ④渋谷　節子	自由テーマ	交流観光による農村活性化の研究ー中国成都での事例を中心に	300
神谷　達夫	①江上　直樹 ②佐藤　充 ③岡本　悦司	指定テーマ（高齢者の運転免許返納）	高齢ドライバーの運転特性の研究 ーＲＴＫ測位ＮＳＳを用いた高精度位置情報を含む運転状況記録システムの開発ー	235
佐藤　充	①神谷　達夫 ②江上　直樹	指定テーマ（広域観光）	ローカルな観光ビッグデータの収集・解析に関する研究 ー北近畿地域を事例にしてー	300
芦田　信之	①佐藤　恵 ②佐藤　充	自由テーマ（追加募集）	大学ＩＲ活動と地域協働型教育について	200
三好　ゆう	土井　英二	自由テーマ（追加募集）	大河ドラマ放映による経済効果の推計について	268
山田　篤	神谷　達夫	自由テーマ（追加募集）	機械学習型人工知能を用いた安価な農作物の選別システムの構築	227

[2018 年度　福知山公立大学「地域教育研究プロジェクト」成果報告会の実施]

福知山公立大学では、昨年度まで「教員プロジェクト」として実施してきたプロジェクトを、「地域研究プロジェクト」に名称を変え、昨年度実施した 7 つのプロジェクトの成果報告を実施しました。今年度は実践教育専門委員会と共催し、「先導的プログラム」の成果報告も兼ねて実施しました。また、市民の皆さんと意見・交流の機会の場も設けました。

日　程	場　　所	テ　ー　マ	参加者数
7 月 25 日	京都府立中丹勤労者福祉会館	先導的プログラム成果報告＆地域研究プロジェクト（旧教員プロジェクト）成果報告＆研究交流会	40 名

包括協定の締結状況について

〔概要〕

包括協定は、本学と包括協定団体が包括的な連携を深めることにより、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の維持・発展に寄与することを目的としています。

今年度は新たに京都府、京都府北部地域連携都市圏を構成する４市２町、丹波市、朝来市と連携、協力に関する包括協定を締結し、これで包括協定団体は計 17 団体となりました。

当協定を結ぶことで想定している連携・協力事項としては、①地域の人材育成・定着に関すること、②地域の振興、情報化に関すること、③地域経済の発展に関すること、④地域の観光振興に関すること、⑤地域づくりに関すること、⑥地域の教育・文化・スポーツの振興及び健康増進、保健医療福祉向上に関すること、⑦その他大学及び包括協定先の団体が必要と認めること等があります。

2018 年 11 月 20 日には、包括協定締結先との定期協議会を実施し、本学と包括協定団体とが、戦略的にしていくための連携希望の調査も行いました。

〔詳細・内容〕

【福知山公立大学の包括協定の状況】

番号	包　括　協　定　団　体　名	締　結　日
1	国立大学法人　京都工業繊維大学	2016 年 12 月 1 日
2	大江まちづくり住民協議会	2017 年 1 月 18 日
3	三和地域協議会	2017 年 1 月 18 日
4	夜久野みらいまちづくり協議会	2017 年 1 月 18 日
5	京都北都信用金庫	2017 年 3 月 31 日
6	但馬信用金庫	2017 年 5 月 26 日
7	一般社団法人　京都府北部地域連携都市圏振興社	2017 年 6 月 23 日
8	西日本旅客鉄道株式会社・福知山支社	2017 年 12 月 1 日
9	京都府	2018 年 10 月 22 日
10	舞鶴市	2019 年 1 月 10 日
11	綾部市	2019 年 1 月 10 日
12	宮津市	2019 年 1 月 10 日
13	京丹後市	2019 年 1 月 10 日
14	伊根町	2019 年 1 月 10 日
15	与謝野町	2019 年 1 月 10 日
16	朝来市	2019 年 1 月 25 日
17	丹波市	2019 年 1 月 25 日

京都府と福知山公立大学との
連携・協力に関する包括協定調印式

丹波市、朝来市と福知山公立大学との
包括的連携協力に関する協定締結式

京都府北部地域連携都市圏を構成する4市2町と福知山公立
包括的連携協力に関する協定締結式

定期協議会

まちかどキャンパス事業
（福知山市・丹波市・朝来市連携事業）高大連携研究会

■参加者　第１回 27 人　第２回 39 人
■協力：福知山市、丹波市、朝来市

【高大連携研究会】

福知山市・丹波市・朝来市の三市連携事業の一環として、2018 年度は北近畿地域連携センター主催で「福知山市・丹波市・朝来市高大連携研究会」を開催しました。これは、京都府南部および兵庫県南部と比較し教員研修への参加が難しい北部地域の教員に対し、研修の機会を提供するという地域貢献的意味合いに加え、高大共通の教育課題について高校教員と大学教員とが共に検討し教育実践の改善を図る研究プラットフォームの構築を目指すことをその趣旨としています。

第１回研究会では、京都大学の高見茂教授をお招きし「大学が求める人材像と地域探究学習にて育成を目指す能力」をテーマに、大学における地域連携の取り組みの現状、京都大学の特色入試の現状、海外における高大接続の一事例としてＡＰプログラムの紹介をいただき、その後、参加者と意見交換を行いました。第２回研究会では、第 1 回研究会の意見交換の際に話題となった「質問づくりの手法（Question Formulation Technique：QFT）」について詳細を知りたいという参加者からの声に応え、未来教育研究所の高見佐知研究開発局長をお呼びし「『質問づくりの手法』とは」のテーマで、QFT についてグループワークを通して実際にその過程を体験する機会を提供しました。

〔詳細・内容〕

【第 1 回研究会】

＜テーマ＞

大学が求める人材像と地域探究学習にて育成を目指す能力

＜日時・会場＞

２０１８年１２月２１日（金）　１８：００～２０：００

市民交流プラザふくちやま　３階　視聴覚室

＜講師＞

高見　茂氏

（京都大学　学際融合教育研究推進センター地域連携教育研究推進ユニット特任教授
国際高等教育研究所副所長／京都光華女子大学副学長）

＜参加者数＞

27 人

＜内容＞

新しい学習指導要領では、「総合的な探究の時間」をはじめとして、「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」等の科目が新設され、探究学習の重要性が増しています。また、北近畿地域の高校においても、各高校の特色ある教育課程の設計をするなかで、地域探究学習に力を入れようとしている学校も多く見受けられます。このような現状の中で、地域探究学習を体験することが、大学入学後に必要とされる力とどのようにつながるのかという点について、国立・私立の大学の運営に携わった経験を持ち、教育行政についての研究をされている高見茂教授をお招きし、研究会を開催しました。

研究会では、話題提供として、まず「京都観光経営学講座」「京都大学私学経営アカデミー」「高校生と大学生の探究成果ポスター発表会」等の大学と地域との連携事業について紹介がなされ、大学においても地域社会と如何に連携し、教育研究の機会を構築していくことが重要になってい

ることが述べられました。次に、京都大学における「特色入試」を事例として、大学入学後においては従来の受験学力だけでなく、自ら問いを立て、その問いに対して自ら行動し探究を続け、周りを巻き込んでいく人材が必要とされていることが紹介されました。最後に、高大接続の海外事例として、米国のＡＰプログラムが紹介され、ＡＰプログラムにおいては高校教員と大学教員が協力してシラバスを開発している等、学校段階を超えた教育プログラムの開発の必要性が述べられました。

以上の話題提供の後に、研究会の参加者同士のグループワークとして、自分たちが所属している高校における探究学習の課題について情報共有を行いました。その中では、特に「生徒に問いを立てさせることの難しさ」について言及されることになり、それに対する方策として高見教授より「質問づくりの手法」という米国の教育研究があることが紹介されました。

時間の関係上、第１回研究会はそこで終了となりましたが、参加者より「質問づくりの手法」について是非深く学びたいという声が多く、同年度内にもう一度研究会を開催する運びとなりました。

【第２回研究会】

＜テーマ＞

『質問づくりの手法（Question Formulation Technique：QFT)』とは

＜日時・会場＞

２０１９年3月1日（金）　１７：３０～２０：００

市民交流プラザふくちやま　３階　３－２会議室

＜講師＞

高見　佐知氏　（未来教育研究所　研究開発局長）

＜参加人数＞

39 人

＜内容＞

新しい学習指導要領においては探究学習が重要視され、生徒の「問いを立てる力」を如何に育成させることに注目が集まっています。そうした中で実施した前回の研究会において、「質問づくりの手法（Question Formulation Technique：QFT)」についてより深く学びたいという声が多数あげられたこともあり、ハーバード大学大学院が提供する QFT のプログラムを修了した高見佐知氏をお招きし、QFT についての研究会を開催しました。

研究会では、質問の焦点（QFocus）の設定から、質問づくり、閉じた質問と開いた質問の分類、質問の優先順位の設定といった QFT を実施する際の過程について紹介がなされるとともに、グループワークを通して実際に参加者がその過程を体験しながら学んでいきました。米国の研究としての QFT の紹介だけでなく、日本の教育課程において実施する際の例や、地域を題材にした場

合の例など、日本の教育現場に導入する際の方法についても言及され、参加者からも普段の教科指導に反映ができそうだといった感想が寄せられました。

実施後のアンケート結果（P38–40 参照）を見ても、第１回と同様に第２回も高い満足度を示していましたが、兵庫県からの参加者が多かった関係上、実施場所については各市を持ち回りで実施してほしいといったように、開催時期や開催場所についての改善要望が多く寄せられました。

なお、そうした要望を反映しやすい環境を整えるべく、第２回研究会の終了後に、本研究会の参加者で構成するメーリングリストを作成しました。本年度のアンケート結果や、メーリングリストを活用しつつ、次年度も継続的に活動を実施していく予定です。

まちかどキャンパス事業（丹波市・朝来市連携事業）

「夢を語ろう　未来へ繋ごう丹波市議会☆ミライプロジェクト」（丹波市との連携）及び朝来市梁瀬地区におけるフィールドワーク（朝来市との連携）

■参加者：70 人　■共催：丹波市・朝来市

〔概要〕

●（まちかどキャンパス事業）丹波市

2018 年 7 月 26 日（木）、丹波市と本学との連携事業「まちかどキャンパス（丹波市）」の一環として、「夢を語ろう　未来へ繋ごう丹波市議会☆ミライプロジェクト」（まちかどキャンパス三市連携事業）がたんば黎明館（丹波市柏原町）で実施されました。当日は、丹波市議会議員 20 名、本学の学生 25 名（地域経営演習Ⅰの杉岡･三好クラスの 1 年生 17 名、地域経営演習Ⅲ杉岡ゼミの 2 年生 8 名）、柏原高校生 17 名が参加しました。

当日は最初に、杉岡准教授によるシティズンシップ教育に関する講義がありました。その後、7 つのグループに分かれ、「明智光秀と丹波の資源を生かした関係人口を増やすアイデア」をテーマにグループワークを行いました。グループワークでは、1 チーム 1,000 人の対抗戦で、足軽駅伝や騎馬戦など戦感のある競技イベントの実施、「赤井直正 ×〇〇」として丹波市の特産物の売り出し、明智光秀の戦地を巡る聖地巡礼など、若者らしいアイデアが多く生まれました。

●（まちかどキャンパス事業）朝来市

朝来市と本学との連携事業「まちかどキャンパス（朝来市）」が本学杉岡ゼミと連携して取り組まれました。

具体的には朝来市の梁瀬地区に入り、市職員をゲスト講師に招いての講義、現地訪問（ヒアリング調査）、フィールドワーク、調査（高校生・中学生・小学生）が行われました。

また、後半は、学生プロジェクトとして、学生が主体的に朝来市（梁瀬地区）を題材にした「やなせＡｔｏＺ」の制作に取り組みました。

まちかどキャンパス事業（宮津市連携事業）

宮津わかもの会議

～平成生まれの 30 歳以下の 30 人による「宮津の 30 の未来」を考える会議～

■2018 年 12 月 26 日（水）9:00～17:00　■宮津市福祉・教育総合プラザ３階　第１コニュニティルーム
■参加者　38 名
■講演者　⑴ 濱田　祐太氏　「“わかもの” から始めるまちづくり～半径 5m の小さな課題から～」
　　⑵ 小松　美香氏　「まちを育てるということ」
　　⑶ 八尋　慈教氏　「かみやづの地域振興は出来ることから！」
■主催：「宮津わかもの会議」実行委員会
■共催：福知山公立大学（北近畿地域連携センター、実践教育専門委員会）、宮津市
■協力：特定非営利活動法人 TEAM 旦波

〔概要・趣旨〕

2018 年 12 月 26 日（水）、まちかどキャンパス事業の一環として、宮津市福祉・教育総合プラザにおいて「第１回宮津わかもの会議」を開催しました。宮津わかもの会議は、平成生まれの若者が集まり、宮津市や自分たちの将来について考える会議です。宮津にゆかりのある高校生や大学生、市職員、地域おこし協力隊の方など 24 人の参加者のほか、多くの傍聴参加がありました。

冒頭、宮津市出身の高原望乃実行委員長（本学地域経営学科 2 年生）の挨拶のあと、第一部として TEAM 旦波の濱田祐太氏、M おいしいグルメ開発研究所所長の小松美香氏、上宮津地域会議の八尋慈教氏にご講演いただきました。

第二部は「宮津愛を高めるためにわかものができること」と題して４グループに分かれてのワークショップを行い、最終的に「宮津わかもの宣言～わかもの約 30 人による宮津の 30 の未来～」を取りまとめました。最後は城﨑雅文宮津市長と西村紀寛丹後広域振興局長から講評を頂き閉会しました。

〔詳細・内容〕

９時～　開会挨拶（実行委員長：高原望乃）
９時 10 分～　第１部 講演
　⑴ 濱田 祐太氏「“わかもの”から始めるまちづくり～半径 5m の小さな課題から～」
　⑵ 小松 美香氏「まちを育てるということ」
　⑶ 八尋 慈教氏「かみやづの地域振興は出来ることから！」
12 時 10 分～　昼食・休憩
13 時 10 分～　第２部 ワークショップ
　テーマ「宮津愛を高めるためにわかものができること」
15 時 40 分～　全体発表・まとめ（投票）
16 時 40 分～　講評
　・八尋 慈教氏（上宮津地域会議 代表）
　・西村 紀寛氏（京都府丹後広域振興局長）
　・城﨑 雅文氏（宮津市長）
16 時 55 分～　閉会挨拶
　（福知山公立大学北近畿地域連携センター長：杉岡秀紀）
17 時～　集合写真　解散

参加者からは「思っていた以上に盛り上がった。いろんな人と交流でき、わかもの会議が開催できて本当によかった」「人を呼び込める可能性がある地域の魅力に、まずは地元の人が気付くことが大事」といった感想が寄せられました。

北近畿地域連携センター事業　アンケート集計結果

2018 年 7 月 21 日

第 1 回北近畿地域連携シンポジウム（京丹後市）
「北近畿地域における公共交通と高齢ドライバー」

【アンケート実施概要】

参加者数	42人	
回答者数	22人	
性　　別	男性: 18人	女性: 4人
回 収 率	52%	

【Q1】基調講演（帝塚山大学学長　蓮花一己氏）はいかがでしたか?

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
11 人	8 人	3 人	0 人	0 人

・高齢者ドライバーの免許自主返納から免許継続支援は非常に興味深い。
・高齢者は危険な運転をするものと思っていたが、しっかり練習できるシステムさえあれば、車社会で生きていけると思った。
・免許返納について考えさせられた。
・切実な問題でこのような研究が積極的にされているということに、未来に対して自分なりにも考える機会となり、明るい気持ちになりました。新しいシステムが構築されるまでにも、リハビリテーションの取り組みが全国的にも広まればいいと思った。講習を手厚くなど今すぐできそうなこともあると思う。
・具体的なデータを基にした、分かりやすい話でした。
・高齢者ドライバーは、免許返納だけが全てではないという考え方を知れて良かった。

【Q2】パネルディスカッションはどうでしたか?

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
11 人	8 人	3 人	0 人	0 人

・京丹後市のやられている内容がとても良く分かりました。タクシーの営業所がなくなると観光事業に大きく影響すると感じました。免許の根本的な講習のスキルアップを望む。
・京丹後市の公共交通は充実していると感じた。
・高齢になっても車に乗れる仕組みづくりが必要だと思います。
・家で市報に目を通しているより、実際に足を運んで得た知識を感じます。
・いろいろな意見が伺えてよかったです。
・それぞれの役割と取組みを理解することにつながった。さらに個々も課題をどう取り組んでいくのか、今後は参加者それぞれが考え、意見を出すようにしたい。

【Q3】その他、シンポジウムについてのご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。
・他の分野の取組みもやると活性化につながると思う。
・もっと市民の参加があるといいと思う。
・免許返納する場所にも行けなくなります。
・鼎談がそれぞれの立場でお話いただき、興味深い内容だった。

【Q4】このシンポジウムを何でお知りになりましたか?

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他
14 人	1 人	1 人	2 人	3 人

不明：1 人

【Q5】シンポジウムを受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?（複数回答あり）

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間
0 人	4 人	7 人	1 人	9 人	7 人

【Q6】よろしければ性別、年齢について教えてください。

1. 性別

男性	18 人	女性	4 人

2. 年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
1 人	1 人	1 人	7 人	7 人	3 人	2 人	0 人

3. お住まい

不明：2 人

市内	17 人	市外	3 人（与謝野町、奈良市、福知山市）

2018 年 10 月 13 日

第 2 回北近畿地域連携シンポジウム（福知山市）
地域コミュニティと自治体のよりよい「つながりかた」を考える

【アンケート実施概要】

参加者数	73人		
回答者数	48人		
性　　別	男性: 36人	女性: 11人	未回答: 1人
回 収 率	65%		

【Q1】基調講演「地域コミュニティと自治体のよりよい『つながりかた』を考える」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
22 人	23 人	2 人	0 人	0 人

不明：1 人

・問題点が浮き彫りとなり、現状理解に役立つ。
・地域と行政の関係性について整理できました。
・課題をわかりやすく話していただけた。反面、やや講義的で難しいところがあった。
・地域づくり、地域自治との違いを確認できるなど、コミュニティと行政の関係を改めて考えられた。
・行政経験に基づいた講演内容で大変わかりやすかった。
・地域自治と地域づくりの相違点など、漠然と感じていたものを明確にしていただき、スッキリしました。
・社会の変化、農村型、都市型、混合型、ニーズをどうつかみ、統合し対応していくかについてヒントがもらえました。
・つながり方や関係性を感覚的なものだけの説明ではなかったので、分かりやすく、様々な事例の参考になると思う。
・地域自治と地域づくりの違いがよくわかりました。まだ若者や女性が参加しづらい風潮があるので、これ

からの取り組みを考える必要があると感じました。
・今まで持っていなかった考え方を知ることができた。
・共感できる部分が多くあった。行政と地域の問題点を改めて考え知ることができた。主観で地域と行政はまだまだ協力できていないと思ったが、着実に歩みを進めていることを知り、良いと思った。

【Q2】パネルディスカッションはどうでしたか?

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
18 人	19 人	3 人	1 人	0 人

不明：7 人

・いろいろな地域活動を聞けてよかった。
・地域は多様であるということが改めてわかりました。そこに住む「人」や「その人の想い」が原動力になることがわかりました。
・経験に基づいた解決法を数多く聞けたことは大変有意義だった。
・それぞれの方の考え方や背景がよく分かりました。それぞれ特徴があり、よいパネルディスカッションでした。
・三和、綾部、朝来の地域づくりの事例や地域とのかかわり方を考えられた。
・いろいろと学ぶ点は多かったです。感動したのは初めてでした。
・それぞれの取り込みが具体的に説明されわかりやすく良かった。
・福知山市以外の地域の政策といったいろいろな事例を知ることができた。地域が自ら試行錯誤され、どれも違った考え方があり、どうしたら地域を良くすることができるのかなど、いろいろな取り組みを知ることができ、自分にとってプラスになった。

【Q3】「福知山公立大学に期待すること」について、ご意見をご記入ください。
・対話の場づくりを公立大でやってほしい。
・市民の大学として、どんどん地域とのつながりを増やしてください。
・福知山市の発展に繋がれば良い。
・市からの財政支援のことがいろいろ言われ、大学が市に必要かという意見さえある。若い人がいるだけでまちに活気が生まれ、まちの中に入っていただいている。大いに頑張っていただきたい。
・「大学があるから市が良くなった」と言われるように全国から注目されるよう頑張ってください。特に大学が人口増につながったとはっきり示せるよう、統計的にも証明できるくらいの成果を期待しています。
・学びの場の提供を市民に対して続けてください。
・今後ともこのような機会をたくさん作ってください。

【Q4】その他、ご意見やご感想があればご自由にご記入ください。
・学生には橋渡しができるような人材になってほしい
・いろいろなことが知りたい気持ちで参加してよかったと思います。
・地域にある学校の在り方、地域連携に関わって、何かヒントが得られればと思い参加させていただきました。今日はまず自分自身の地域の一員として考えさせられる機会となりました。

【Q5】このシンポジウムを何でお知りになりましたか?（複数回答あり）

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他
29 人	3 人	2 人	6 人	9 人

・その他=Facebook、ラサンカ、ニュースレター、SNS

【Q6】シンポジウムを受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?（複数回答あり）

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間
2 人	1 人	16 人	27 人	15 人	4 人

夜以外　1 名

【Q7】よろしければ性別、年齢、お住まいについて教えてください。

1. 性別

男性	36 人	女性	11 人

不明：1 人

2. 年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
9 人	6 人	1 人	9 人	10 人	9 人	3 人	1 人

3. お住まい　　不明：6 人

市内	30 人	市外	12 人（与謝野町、南丹市、宮津市、丹波市、綾部市、朝来市、兵庫県）

2018 年 11 月 3 日

第 3 回北近畿地域連携シンポジウム（舞鶴市）
日本海新時代とグローカリズム

【アンケート実施概要】

参加者数	43人		
回答者数	25人		
性　　別	男性: 14人	女性: 2人	未回答: 9人
回 収 率	58%		

【Q1】講演「米朝首脳会談後の朝鮮半島の行方」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
10 人	6 人	5 人	2 人	0 人

不明：2 人

・朝鮮半島をめぐる米国、中国、韓国、北朝鮮各国の思惑や背景事情について理解を深めることができた。
・近年の北朝鮮情勢について網羅されており、非常に分かりやすかった。
・タイムリーなお話でおもしろかった。
・もったいない!もう少し聞きたかった。もっと多くの人に聞いてほしかった。
・専門的な分析がよくなされていると思う。とても良く分かってとても良かった。
・物の見方が幅広く、多層的で問題の深さが知れると思います。
・政治的、経済的な東アジアをめぐる現状について情報を得ることができた。
・朝鮮半島の行方がいろいろと変わっていくのがわかった。

【Q2】講演「『東北アジア新経済圏』形成の可能性と意義について」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
5 人	5 人	11 人	2 人	0 人

不明：2 人

・世界経済の最近の動きを知ることができた。
・京都北部の可能性、方向性も話してほしかった。
・東北アジアの経済状況について概要が理解でき、非常に興味深い内容であった。
・東北アジアは大きく経済が発展してきましたが、これからはどの国も抱える少子高齢化、人手不足、環境汚染、社会保障問題等、多くの課題があります。これからの若い人たちの知恵をもって走り切っていただきたいと思います。
・2人の講演もまとめながらシンポジウムを進められたので、分かりやすいシンポジウムになった。

【Q3】パネルディスカッションについて内容はどうでしたか。
・大変参考になりました。また質問にも全て答えてくださり、ありがたかったです。
・講演内容の補足的な内容でもあり、有意義な内容であった。
・中国=130 年間の高成長、日本も高成長になってほしい。
・綾部の企業も舞鶴港を通じて中国に輸出しているとのこと、参考になりました。

【Q4】福知山公立大学に対するご意見、ご要望、ご感想、大学に期待する事についてお聞かせください。
・現在の情勢を踏まえたテーマのシンポジウムを開催してくださりありがとうございました。
・舞鶴でこのようなアカデミックでタイムリーな話を聞くことが出来るようになり、北部に大学が出来て良かったと感じます。
・地域の特性を生かして頑張って欲しい。日本海のエネルギー開発に関しての研究などもやってほしいが。
・産学協同一官も加わり、現状分析検討の上、地域発展の方向性を示して、今後の展開を構想しそれぞれが役割分担し具体的にリードしてください。
・北部の中央部にあり、兵庫・府北部との連携が取りやすい地点に有利性があっていいと思います。しかし、詳しく知れば知るほど差違があるでしょうし、健闘を祈る。
・京都府下には総合大学がないので立派な大学に発展していけば、地方も学生数が増えるのではないか。

【Q5】集計資料とさせて頂きたく、お伺いします。

1. 性別　　不明：9 人

男性	14 人	女性	2 人

2. 年齢　　不明：1 人

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
0 人	0 人	2 人	3 人	3 人	7 人	8 人	1 人

3. お住まい　　不明：3 人

市内	20 人	市外	2 人（福知山市）

【Q6】このシンポジウムを何でお知りになりましたか?

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他
19 人	1 人	2 人	2 人	0 人

不明：1 人

【Q7】シンポジウムを受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?（複数回答あり）

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間
2 人	4 人	8 人	2 人	14 人	2 人

2018年11月27日

第４回北近畿地域連携シンポジウム（養父市）
農福連携を通じた障がい者の社会参加～農業と福祉の新しい連携のかたち～

【アンケート実施概要】

参加者数	50人		
回答者数	25人		
性　　別	男性: 12人	女性: 4人	未回答: 9人
回 収 率	50%		

【Q1】基調講演「全国に広まる農福連携について」内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
8人	11人	5人	0人	0人

不明：1人

・取り組み内容、事例が素晴らしい。ひきこもりと農福連携の事例があれば知りたい。
・説明が丁寧でわかりやすかった。
・大変興味深い話しでした。
・価値のある活動であることはよく理解できました。ユニバーサル社会の実現に向けての一つの道なのかなと認識しました。
・困難度の高い障がい者就労の現場に関わる多くの事例を共有できた。
・農作物を作り販売店を持っても、高齢化で足が無いと客足が伸びない。その中で移動販売店はおもしろいと思いました。
・事例を交えての説明が理解しやすかった。

【Q2】「パネルディスカッション」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
7人	13人	2人	1人	0人

不明：2人

・藤原氏の話は大いに参考になるものであった。同じような取り組みができたらと思う。
・リフレかやの里の事例、農生業の概念が参考になった。
・各代表のディスカッション、とても素晴らしいお話で頑張っている。内容がとても良かった。
・それぞれの取り組みが具体的に示されることで理解が深まりました。
・リフレかやの里の実践は興味深いものであった。
・住んでいる街のしている事、考え方がよくわかった。他地区の元気な活動を知ることができたのはとても良かった。
・よさのうみ福祉会の取り組みが素晴らしかった。地域に根ざす福祉を感じた。
・他の市町、施設の取り組み現状が知れてよかった。
・リフレかやの里の話は非常に心に残りました。濱田先生の話が良かった。講演より感じるところがありました。

【Q3】福知山公立大学に対するご意見、ご要望、ご感想、大学に期待する事についてお聞かせください。
・地域の主要大学として北近畿を牽引していただきたい。
・いろいろな切り口のシンポジウムをありがとうございます。
・農福連携についてもっと聞きたいし、もっと様々な人に聞いてほしい。

【Q4】その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。
・障がいを持つ人々が能動的に生きていけるように多くの方が努力をされていることが良く分かりました。何かできることがあればと考えています。

【Q5】集計資料とさせて頂きたく、お伺いします。

1. 性別

男性	14 人	女性	2 人

不明：9 人

2. 年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
0 人	0 人	2 人	9 人	5 人	9 人	0 人	0 人

3. お住まい

市内	20 人	市外	4 人（豊岡市、舞鶴市、奈良市）

不明：1 人

【Q6】このシンポジウムを何でお知りになりましたか?（複数回答あり）

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他
17 人	1 人	0 人	5 人	2 人

【Q7】シンポジウムを受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?（複数回答あり）

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間
1 人	4 人	11 人	3 人	7 人	4 人

2018 年 12 月 20 日

第５回北近畿地域連携シンポジウム（豊岡）
「地域と AI について考える」

【アンケート実施概要】

参加者数	152人		
回答者数	72人		
性　　別	男性: 35人	女性: 8人	未回答: 29人
回 収 率	47%		

【Q1】基調講演「AIが変える未来」内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
21 人	28 人	20 人	2 人	0 人

不明：1人

・著名な教授による講話であったが、内容は分かりやすく役に立つものであった。
・AIの歴史、そこにある思想が理解できた。AIを考える良いきっかけになりました。
・AIの基本から最新の事情まで教えていただき、AIへの理解は深まりました。
・基本的なところから、最新の情報まで幅広く教えていただいた。
・AIを活用するうえで、注意していかなければならない点などがわかった事が良かった。
・知らない身近なAI例とかを具体的にみせてくれておもしろかった。
・AIの定義の多様性を理解できた。現在のAIは学習能力であり、計算機の進化で高度な学習能力を持つことが現実となったと理解した。単に電卓がAIであるという意味ではないことを理解した。
・AIについては全く詳しくないですが、最新の技術の話を聞いていると人の生活に密着して非常に発達していてとても驚きました。
・AIをもっと身近に感じられる日がやってくることを実感しました。福知山公立大学に情報系の学科ができる事を楽しみにしています。

【Q2】「パネルディスカッション」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
20 人	24 人	19 人	7 人	0 人

不明：2人

・豊岡市長の地域的具体的に現状と取り組み課題。西田教授の回答が明確だった。
・AIの開発のみでなく、課題と限界がクリアだった。
・それぞれの見地からの発言、今後の方針等、参考になる内容であった。
・市長さんのメッセージが明確で、大変わかりやすく、まちの目指すビジョンに触れることができました。
・豊岡市長が参加してくださったことで、豊岡市が今後AIを活用していくビジョンが見えた気がした。
・質問とりまとめのパネルディスカッションは新鮮でした。
・課題が難しいだけに、パネルディスカッションの方向も難しく感じた。
・豊岡の水田は無農薬でAIの活用は不要と市長は答弁しているが、一部地域のみ無農薬であり、多数が農薬稲作のためAI技術、ドローンの活用は必要である。
・市長の話が面白かった。
・具体的テーマや課題について話されると、やはり分かりやすい。
・現代から未来の問題、豊岡市の政策について聞くことができ、とても良かったです。
・AIが与える影響について、良い悪い点にそれぞれに着目した話で考えさせられる所が多かった。
・AIに関する考え方や地域での使われ方、市長の考えを聞くことができて良かったです。

【Q3】福知山公立大学に対するご意見、ご要望、ご感想、大学に期待する事についてお聞かせください。
・地域の課題（人口減、過疎など）を解決することを大いに期待しています。
・大変参考になりました。シンポジウムを継続して開催していただきたい。
・京都北部、兵庫北部の地域貢献できる人材育成を望む。
・地域と共生する大学になることを期待しています。
・北近畿は人口の減少化に伴い、今後ますます厳しい状況になっていくことが、予想されている。大学に若年層が集まり、地域が活性化していく起爆剤となることを期待している。
・初めてPRESSを読んだが、コンセプト、方向、大変魅力的。「想像力」と「創造力」に着目されていて大変面白い。
・今後とも、豊岡市に協力していただきたい。
・IT人材の育成に期待しています。
・豊岡の近くにある大学なので、これからも地域に寄り添って頑張ってください。
・地域連携の取り組みを続けていただきたいと思います。

【Q4】その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。
・今後もこのようなシンポジウムを続けてください。
・AIが人を本当に幸せにするのかが大きな課題であると思う。
・すでに、活用している若者たち、進化の速い未来、AIを活かすことはマストなので、それを使いこなす人間、行動力を持てる教育を。
・難しかったが、知っておく必要がある。
・人は考える葦である。ますます人としての価値、AIの使い方が大切になると思います。
・教育に関するシンポジウムを開催してほしいです。
・素晴らしい先生方の話を聞ける貴重な機会を設けてくださり、ありがとうございました。
・AIという、日頃専門的な情報を入手することができない深い所の話を聞かせていただけてよかったです。

【Q5】集計資料とさせて頂きたく、お伺いします。
1．性別

男性	35 人	女性	8 人

不明：29 人

2. 年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
0 人	5 人	8 人	16 人	26 人	15 人	2 人	0 人

3. お住まい

市内	54 人	市外	10 人（福知山市、朝来市、京丹後市）

不明：8 人

【Q6】このシンポジウムを何でお知りになりましたか?（複数回答あり）

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他
33 人	8 人	1 人	17 人	15 人

【Q7】シンポジウムを受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?（複数回答あり）

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間
1 人	12 人	36 人	4 人	20 人	4 人

2019 年 2 月 24 日

第６回北近畿地域連携シンポジウム（福知山）
明智光秀の生涯と丹波福知山

【アンケート実施概要】

参加者数	310人		
回答者数	153人		
性　　別	男性: 57人	女性: 31人	未回答: 65人
回 収 率	49%		

【Q1】基調講演「戦国武将　明智光秀」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
91 人	35 人	21 人	5 人	0 人

不明：1 人

・史実の見方とドラマの楽しみ方が少しわかったように思いました。
・短い時間に凝縮された講義でよくわかった。ききやすい口調で楽しく聞けました。
・論理的に分かりやすくお話してくださり、とても分かりやすかった。もっと長い時間講演の時間があるとよかったです。
・話も聞きやすく大変良かったです。ますますドラマが楽しみです。
・大変わかりやすく歴史の勉強をさせていただきました。大河ドラマも先生の話を思い出しながら楽しみたいと思います。
・単なる謀反人ではないという事は、最近の色々なテレビ番組を見て知っていたが、来年の大河ドラマを見ることでどのような人物に描かれるのか楽しみなところです。
・「本能寺の変」で信長を討ったという印象しかなかったが、様々な光秀の情報を知れて、2020 年から始まる大河ドラマが楽しみになりました。
・本能寺の変の真相もききたい。小和田先生の講演をもっと長くしてほしいです。

【Q2】「パネルディスカッション」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
69 人	49 人	19 人	6 人	1 人

不明：9 人

・パネリストの個性が出て、参考になりました。
・光秀の細かいところまで紹介していただき興味深かったです。
・知らないことも多く聞けた。それぞれ熱い話を聞けて良かったです。
・学長先生も専門外とは言いながら、よく勉強されていました。
・小和田先生の説明が入ることで、より鮮明に光秀のことがわかりました。
・基調講演から内容を転じて人柄や後半生の本能寺変に話題が膨らんでよかったです。
・質問コーナーでは光秀の信長に対する、京の城をつくる進言の話や福知山と亀山の違うところ、共通するところ等、興味深かったです。光秀の人柄についても大変面白かったです。
・光秀の人柄の説明が、細かくなされ理解できた。また、偉業について知ることが出来ました。

【Q3】福知山公立大学に対するご意見、ご要望、ご感想、大学に期待する事についてお聞かせください。
・学生も含めた研究成果が公開されていますが、引き続きよろしくお願いいたします。
・今後もこうした開かれた講演会をもってほしいです。
・一般市民向けの年間を通した講座を開催してほしい。有料でも構いません。
・学生数の受け入れを増やして、福知山を若者の多い街にしてほしいです。
・公立大になってから学長をトップとして、どの教授もすごく意欲的に福知山に関連した各種の取り組みに頑張っておられる感が強く思います。社会人対象の勉強会も参加させていただいていますが、身近に感じています。その努力とご活躍に感謝しつつ、ますます頑張っていただきたいと思います。
・地域活性化の為に、積極的に取り組んでおり、引き続き尽力されることを期待します。
・このようなシンポは公立大学が中心になって、もっと多くのことを企画していただけると嬉しいです。
・公立大学があることにより、若者が集まり、活性化されます。市民と一体となって、ますます発展するよう活動してほしいと思うし、市も最大限バックアップしてほしいです。
・昨年、朝来市での地域づくり、シンポに参加しました。地域に多くの課題がある中で、貴大学と自治体との連携は素晴らしいことです。丹波市もよろしくお願いします。
・フィールドワークなど大学の取組みは素晴らしいと思っております。
・地域の活動に積極的に取り組んでいる。色々なところできびきびした姿が見受けられる。心強いです。

【Q4】その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。
・明智光秀以外の福知山の観光に関するシンポジウムを企画していただきたいです。
・大河ドラマは良い機会なので、ぜひ色々な形で福知山市の PR を!
・色々な意味で各種講演会、催しに参加させていただく度、この年になってもワクワクしています。ありがとうございます。
・期待していたより 10 倍楽しい時間でした。井口先生の講義を受けたいほどです。
・100 年に一度の福知山が全国から注目される千載一遇の機会です。市民をあげて頑張っていきましょう。
・大河ドラマは今後夏までにいかに PR するかが勝負です。長岡京市、亀岡市に観光客を取られることのないように市民レベルからアイデアを出して総力で福知山を PR していこうと強く思います。
・公立大学さん、福知山の知恵袋として今後も色々企画実行願います。

【Q5】集計資料とさせて頂きたく、お伺いします。
1. 性別

男性	57 人	女性	31 人

不明：65 人

34

2. 年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
1 人	3 人	9 人	13 人	32 人	41 人	43 人	9 人

不明：2 人

3. お住まい

不明：16 人

市内	109 人	市外	28 人	（京都市、篠山市、綾部市、亀岡市、南丹市、丹波市、京丹後市、養父市、神戸市、愛知県、その他）

【Q6】このシンポジウムを何でお知りになりましたか?（複数回答あり）

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他
59 人	18 人	54 人	24 人	14 人

【Q7】シンポジウムを受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?（複数回答あり）

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間
6 人	39 人	14 人	21 人	84 人	10 人

2018 年 7 月 25 日

北近畿地域連携センター研究助成（地域研究プロジェクト）成果報告会

【アンケート実施概要】

参加者数	40人
回答者数	16人
回 収 率	40%

【Q1】先導的プログラム成果報告会の 3 つのプロジェクト発表のうち印象に残ったものを教えてください。（複数回答可）

塩見　直紀	地元研究（学生個々による地域資源活用オリジナル問題集の作成）	12人
星　雅丈／三好　ゆう	経営系学部による地域資源を活用した商品開発･販売の事例研究	6人
杉岡　秀紀	学外政策コンペティションや高大社連携イベントへの参加による学びの受発信プログラム	9人

【Q2】教員プログラム成果報告会の 7 つのプロジェクト発表のうち印象に残ったものを教えてください。（複数回答可）

神谷　達夫	山間地域における自動運転システム構築のためのNSS受信可能域の研究	5人
佐藤　充	北近畿地域における観光地経営の経営指標とその測定法に関する研究	11人
張　明軍	クルーズ船寄港による商店街振興への可能性に関する研究-商店街周辺地域住民の受け入れ意識の規定因分析-	6人
芦田　信之	与謝野町「かや山の家」におけるヘルスツーリズム観光活動	10人
岡本　悦司	北近畿市町村の地域包括ケアへの国保データベース活用状況に関する調査	7人
平野　真	福知山市の中心市街地活性化に関する研究-集積商業の持続可能な発展という視点から-	10人
三好　ゆう	公共施設の管理･運営に関する研究-文化公共施設に着目して-	6人

【Q3】分科会についてのご意見があればお願いします。

・意見交換は重要。
・タイムスケジュールが少しタイトである。
・もう少しゆっくり話したかったです。

【Q4】成果報告会全体についてのご意見があればお願いします。
・テーマを３～５つに絞って詳しく聴いてみたい。
・せっかくの研究が 10 分程度の報告では伝わらない。
・可能ならば、土日など、今日より十分な時間が確保できるといいと思う。
・成果をどう活かしていくのか、今後の展開が重要と考える。
・個々の研究内容をもう少し詳しく聞ければよかった。
・継続して研究の内容を追いかけたいと思いました。

【Q5】その他、福知山公立大学で今後どんな講座があれば参加したいかなどご意見があればご記入ください。
・市民と共に歩む大学として福知山市にもっと学生の姿が見えるようなフィールドワークをして、その発表会を学生中心でやってほしい。
・今回のような研究成果発表を盛んに行ってほしい。
・また福知山以外の綾部市、舞鶴市などでも行ってほしい。
・引き続きご奮闘ください。

【Q6】集計資料とさせて頂きたく、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別

男性	12 人	女性	4 人

2. 年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
0 人	3 人	0 人	5 人	4 人	3 人	0 人	0 人

3. お住まいの場所

市内	12 人	市外	4 人（京都市、舞鶴市）

4. この発表会を何でお知りになりましたか?

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他
6 人	5 人	0 人	5 人	FB、SNS

5. 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?（複数回答あり）

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
0 人	1 人	9 人	1 人	4 人	2 人	0 人

まちかどキャンパス事業
（福知山市・丹波市・朝来市連携事業）　第１回高大連携研究会

【アンケート実施概要】
参加者数：27 人
回答者数：15 人

【Q1】今回の研究会の内容は満足のいくものでしたか?

十分に満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	非常に不満
7 人	7 人	1 人	0 人	0 人

【Q2】今回の研究会について、より満足度が高くなるためにはどのような改善点があったと思いますか?ご自由にお書きください。

・北近畿の各地で取り組まれていることを詳しく知りたいです。
・多くの学校に参加してもらい、情報共有ができたらよかったと思います。
・とても有意義な時間を過ごさせていただきました。集まれる役員等を増やして他校の先生や行政の方と話せたら嬉しいと思います。
・より多くの地域の方が集まればいろいろな情報が集まったさらに有意義で興味深い会になると思います。
・もう少し時間が欲しかったです。
・探究活動に現在の学習を結びつけるためのノウハウを知れる場となっていくと思います。

【Q3】福知山公立大学がこのような高大連携の研究会を開催することに意義を感じますか?

おおいに感じる	少し感じる	どちらともいえない	あまり感じない	全く感じない
12 人	1 人	1 人	0 人	0 人

（未回答：1 人）

【Q4】今後、このような研究会を開催するとしたら、どのような内容（テーマ、講師、構成等）であれば需要があると思いますか?ご自由にお書きください。

・地域連携関係、大異業種交流会のような場があれば、点を線でつなぎ、面になると思いました。
・動画に関する内容。
・地域連携。
・高見先生の言われたQFTには興味があります。生徒のコミュニケーション力や話す力、聴く力を伸ばす研究会。
・地域連携や地域活性化など。最後にお話があったQFTの話は是非聞いてみたいと思います。
・APプログラム、QFTについてもっと深く知りたいです。話が聞きたいです。
・高大連携プログラムを実施できるような機会をいただけると助かります。
・QFTに関する勉強会を行っていただきたいです。
・地域に根ざしたイベント・教育。
・探究学習を専門とする講師。
・福知山公立大学はもちろん、全国の大学生の進路の分析、例えば、どれだけの学生が地元に帰るのかなど深く学びたいです。
・地域探究のテーマについて大学生の案を教えてもらいたいです。
・グループ討議の中に福知山公立大学の先生が各グループにおられるのがよいと思いました。

【Q5】5. その他、ご意見・ご要望がございましたらご自由にお書きください。

・高大連携だけでなく、他地域の高校・行政と交流することができる貴重な時間でした。ありがとうございました。
・和田山高校の「総合的な学習の時間」とコラボできれば、と思います。
・有意義でした。
・今後、是非、大学生と連携して探究活動を行わせていただきたいです。

まちかどキャンパス事業
（福知山市・丹波市・朝来市連携事業） 第 2 回高大連携研究会

【アンケート実施概要】
参加者数：39 人
回答者数：27 人

【Q1】本日の研究会の満足度を5段階で評価した場合、以下のうちに当てはまるものに〇をお付けください。

満足度	5	4	3	2	1
人数	18 人	8 人	1 人	0 人	0 人

【Q2】本日の研究会について、特に印象に残った点、改善を希望する点など、ご意見・ご感想をご自由にお書きください。

・教育実践の報告ではなく、方法の研修ということで、現場でどのように活かすかを考える幅が広い点が、良い機会を頂いたなと思いました。
・本日の研究会ははじめての手法でしたので、またこのような色々な研修を通して、学ばせて頂ける機会があれば参加させて頂きたいと思います。
・大変ていねいでわかりやすい講師の先生、ありがとうございました。
・QFT について初めて学んだので技法等わかりやすくてよかったです。
・グループワークで様々な意見を共有できて有意義でした。
・Qfocus を実際に考えてみることで効果を実感することができました。
・授業で活用できればと思っています。
・開始時間がもう少し遅ければ参加しやすいです。
・ワークショップを通すことで何が必要で大切かが体験できて良かったです。
・どんな教科、職業であっても実践的ですぐに活かせる学びでした。ご無理を言って開催いただき、ありがとうございました。本当に良かったです。もっと多くの先生に学んで欲しいと思えました。
・せっかくなので地域の視点を入れて頂けるとうれしいです。

【Q3】今後、本研究会を実施していくあたり、どのような内容・形式で実施していくことを希望しますか。各項目について、当てはまる希望度に〇をお付けください。

希　望　度	5	4	3	2	1
①専門家をお呼びしての講演会	17	5	4	1	0
②他の高校における教育実践の情報提供	5	11	7	3	0
③大学における教育実践の情報提供	6	10	6	3	0
④府県を超えた高校教員同士の交流の機会	7	9	6	3	0
⑤高校教員と大学教員との交流の機会	8	9	5	2	0
⑥高校教員と大学生との交流の機会	3	11	6	4	0
⑦高校生と大学教員との交流の機会	6	9	5	3	1
⑧高校生と大学生との交流の機会	10	5	5	4	0
⑨一定のテーマでの大学との共同研究の実施	8	11	4	2	0
⑩高校教員と中学校教員との交流の機会	3	9	9	3	0

【Q4】今後の本研究会の内容・形式（講演テーマ、開催日程、実施形式等）について、「もっとこうしてほしい」といったご要望がありましたらご自由にお書きください。

・アンガーマネジメント（楽しく学べましたので）、日中に（長い休暇の時）実施してほしい。
・あえて教育に関係ない分野の話題提供を受けて、メンバーでディスカッションをしてみたいです。
・初めて参加でしたが、とても参考になりました。
・開催場所を持ち回りにしていただければ幸いです。年会開催計画があれば参加しやすいと思います。
・探究活動の「問い」のたて方は今日学べたと思います。その後の手法や、結果のまとめ方や、探究活動の評価法が学べたら嬉しいです。
・新しいワークショップの手法。
・今回のように知らないことが知識につながる研究会が望ましいです。
・福知山市だけで開催するのではなく会場も3市でまわっていく方が参加しやすい。
・論理的思考を高める手法。

平成30(2018)年度 福知山公立大学　北近畿地域連携センター
年 次 報 告 書
平成31(2019)年3月　発行

発　行 福知山公立大学　北近畿地域連携センター
〒620-0886　京都府福知山市字堀3370
福知山公立大学2号館1階
TEL : 0773-24-7151　FAX : 0773-24-7152
E-mail : kita-re@fukuchiyama.ac.jp
印刷所 株式会社タカギ印刷

何だい

度れつ

でで

でも

福知山公立大学

Kita-re

北近畿地域連携センター

〒620-0886 京都府福知山市字堀3370

TEL 0773-24-7151　FAX 0773-24-7152　Mail kita-re@fukuchiyama.ac.jp

http://www.fukuchiyama.ac.jp